

言語・文学委員会（第24期・第4回）議事要旨

1. 会議名 言語・文学委員会（第24期・第4回）
2. 開催日時 平成31年4月24日（水）12時00分～13時30分
3. 開催場所 日本学術会議1階ロビー
4. 出席者 松浦純（委員長）、吉田和彦（幹事）、渡部泰明（同）
5. 議事概要

①前回、平成30年10月3日（水）に開催された第3回言語・文学委員会の議事要旨を確認した。

②4分科会のこのかんの活動について報告があった。

古典文化と言語分科会：

3月28日15:00～17:00 日本学術会議において、第4回分科会を開催。「新学習指導要領と国語教育」をテーマとする安藤宏連携会員・渡部泰明会員の発表があり、今後の活動について話し合った。平成31年度の活動として、言語・文学委員会と「古典文化と言語」分科会との共催で、8月1日に「国語教育の将来——新学習指導要領との関連で」（仮題）をテーマとしてシンポジウムを開催することを決定した。

文化の邂逅と言語分科会

2019年3月23日（土）13:00～17:00、東京大学駒場キャンパス900番大教室で、公開シンポジウム「学術から考える英語教育問題 —CEFR、入試改革、高大接続—」（当委員会共催、松浦、木部が挨拶、ほかに渡部が参加）を開催した。分科会委員のほか、石井洋二郎（東京大学理事・副学長）、杉山剛士（埼玉県立浦和高校前校長）に登壇いただいた。

同日、同じく東京大学駒場キャンパスで、第3回分科会を開催し、シンポジウムの総括を行なうとともに、そこでの問題提起を軸に提言を準備することとした。

科学と日本語分科会：

第23期に提出した提言「音声言語及び手話言語の多様性の保存・活用とそのため
の環境整備」をベースとして、学術研究の大型マスタープランに研究計画を申請する準備を進め、2019年3月に申請を行った。2月に第4回分科会を開催し、これにつき審議する予定であったが、予算の関係で会議は開催せず、メールにより研究計画案を審議し、申請を行った。なお、第23期の提言に対してNHKハートネットTVから番組制作の打診があり、本分科会の木部が監修して、「故郷の言葉を守りたい～日本の“消滅危機言語”～」が制作され、2018年10月17日、および24日に放映された。

人文学の国際化と日本語分科会：

平成31年3月9日東京大学本郷キャンパスにおいて、第3回分科会を開催し

た。人文学国際化の現状と課題について、国立国語研究所と新潟大学の取り組みがそれぞれ窪藺晴夫委員と桑原聡委員から報告された。また沼野充義委員から日本語書籍の英訳（および他の外国語訳）出版の状況について報告がなされた。その後、以上の報告について質疑が交わされた。

③②の報告を踏まえて、今後の各分科会の活動予定について審議を行った。

④松浦会員が平成31年8月末をもって定年退職を迎えることから、委員会としての後任候補を決定した。

⑤ 第一部拡大役員会で決定された今年度予算配分を受けて、委員会に割り振られる予算はそのまま各分科会に割り振り、端数等については後日調整することとした。予算担当には木部委員が当たることとした。